

巻 頭 言



連携大学院構想

東京女子医科大学学長

宮 崎 俊 一

Shunichi MIYAZAKI

昨今、複数の大学間連携による高度専門教育の先進的なプログラム開発が活発に進められている。2005年の中央教育審議会の将来像答申で、地域の高等教育機関コンソーシアムや同機関を核とした知的クラスターの形成支援構想が提示されたが、昨年の文部科学省の大学改革施策の重点課題として発信されて、俄に現実性を帯びてきた。そして今年に入り、「戦略的大学連携支援事業」が公募された。この事業は各大学の教育資源や人材を有効活用・相互補完しさらに相乗効果を引き出して、高度化と個性・特色を鮮明化するコンセプトを基に新規学部或いは大学院の設置を目指すとしている。さらに大学院教育改革支援プログラムや教育研究拠点グローバル COE においても大学間連携が推奨されている。医科大学・医学部においては連携（あるいは共同）大学院が目標になるであろう。

私どもの東京女子医科大学は40年程前から早稲田大学との人工心臓の共同開発をはじめ、「医用工学研究施設」として人工臓器、医療計測、医用材料等における医—工学の研究協力を行ない、また理工薬系企業人を対象とする医科学講座を開講してきた。近年は「先端生命医科学研究所」に発展し、細胞シート工学を駆使した再生医療への応用で成果をあげている。2001年に早大と大学間教育協定を結び、早大の公開講座を本学の選択科目に加え、他方本学の教授が早大の公開科目を担当することから学部教育連携が始まった。同時に大学院においても本学に先端生命医科学専攻が設置され、早大の生命理工学専攻との共同研究指導の交流がなされている。本年4月、本学隣接地に両大学連携先端生命医科学研究教育施設 (TWIns) が開設され、医—工融合による先端医療テクノロジーの基礎的研究、臨床応用へのトランスレーショナルリサーチ、産官学連携による医療支援産業の創出、および大学院の連携を通じてこれらを担う人材の育成が進められようとしている。

連携大学院を構想するに際して考えるべき様々な課題がある。まずその形体をよく考えなければならない。例えば医学と工学の場合、医学部卒業者と工学部修士課程修了者が新規共同大学院に入学し、「医工学博士」を取得する革新的な形体が考えられる。また、両校の大学院課程を複合利用し、両校名をもって医学博士と工学博士を授与する形体も考えられる。何れにしても新規カリキュラム、教育・研究体制、学位認定機構、事務局などを、スタッフが過剰負担なく協力できる形で構築することが必要である。共同大学院を新設する場合は、共同体の複数学校法人の組織上の位置づけ、経営方式、財政収支などを明確にしておかなければならない。時流に慌てることなく、しっかりした計画を立て、真に生産的な大学院を創出することが望まれる。

略歴

宮崎 俊一 (みやざき しゅんいち) MIYAZAKI, Shunichi

生年月日 昭和16年7月12日

出生地 東京都

- 昭和41年 3月 東京大学医学部卒業
- 昭和41年 4月 東京大学医学部附属病院で臨床研修
- 昭和42年 10月 同 附属脳研究施設生理部門に入室
- 昭和47年 4月 同 助手
- 昭和48年 10月 スタンフォード大学客員研究員
- 昭和49年 11月 カリフォルニア大学ロサンゼルス校講師
- 昭和52年 3月 自治医科大学第一生理学講師
- 昭和53年 5月 同 助教授
- 昭和63年 4月 東京女子医科大学第二生理学教授
- 平成 3年 4月 同 主任教授
- 平成 8年 4月 国立岡崎共同研究機構生理学研究所細胞内代謝部門客員教授
- 平成19年 3月 東京女子医科大学定年退任
- 平成19年 3月 淑徳大学看護学部客員教授
- 平成19年 11月 東京女子医科大学学長

現在に至る